

タンゴとサッカーの国・アルゼンチン

8月7日（金）に安室公民館で、国際理解出前講座「タンゴとサッカーの国・アルゼンチン」を開催しました。

講師は、アルゼンチンの首都ブエノスアイレスで育った大谷アリシアさんです。サッカーラブに所属する小学生15名を含む29名が、日本から遠く離れた国・アルゼンチンの話を聞きました。



講座は、3密を避けるために用意された大きな部屋で開催されました。講師の大谷さんは、アルゼンチンの国旗の色でもある水色を基調としたパワーポイントを使って、アルゼンチンについてのさまざまなことを説明してくれました。

小学生の参加者は、サッカーの話になると身を乗り出し、目を輝かせて講師の話を聞いていました。

アルゼンチンの公用語であるスペイン語については、クイズ形式でたくさんの単語を教えてもらいました。いくつかの単語の中でも、“バカ”と“アホ”という単語は、皆さんしっかり覚えることができたようです。それぞれ、“牛”、“にんにく”という意味です。また、生活の中で知らず知らずの間に使っているスペイン語がたくさんあることもわかりました。

狩りに使う道具やマテ茶を飲むときに使う器などの展示もあり、参加者の皆さんには、地球の反対側にある国・アルゼンチンに関する理解を深めることができたと思います。

